

3 一貫制博士課程における中間評価及び修士の学位取得について

(1) 中間評価

本学の一貫制博士課程研究科・専攻では、一貫制の課程にはじめて可能な教育研究指導の連続性と一貫性をより有効に機能させるために、学生に対して中間評価を行っています。

中間評価とは、大学院博士課程の在学期間中において、学生が入学以後に授業と研究指導によってどのように成長し、成果をあげてきたかを評価すると同時に、研究者としての素質と能力を改めて調べることを目的としており、中間評価の合格者のみが博士論文を提出し課程修了することが認められます。

なお、中間評価の実施方法及び時期については別表のとおり各研究科、専攻別に定められており、所属する研究科の中間評価の実施方法、時期等を確認し中間評価を受けてください。

(2) 修士の学位

本学一貫制博士課程(医学を履修する課程及び編入学者を除く。)では、2年以上在学し、研究科の定める履修方法に従い30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け修士論文等を提出し、その審査及び試験に合格した場合は、修士の学位を取得できます。

なお、修士の取得をもって中間評価合格とする研究科・専攻があります。

(詳細は、「博士課程中間評価実施方法」を参照してください。)

研 究 科	専 攻 等	学 位
人文社会科学研究科	哲学・思想専攻	修士(文学)
	歴史・人類学専攻	
	文芸・言語専攻	修士(文学)又は修士(言語学)
生命環境科学研究科	環境バイオマス共生学専攻	修士(学術)、修士(理学)、又は修士(農学)
グローバル教育院	エンパワーメント情報学プログラム	修士(人間情報学)※

※ グローバル教育院エンパワーメント情報学プログラムの修士の学位は、平成30年度以降入学者が対象となります。

上記のほか、学際的な分野を専攻した者によっては、修士(学術)とする場合がある。

詳細については、指導教員に確認してください。

一貫制博士課程中間評価実施方法

研究科	専攻等	中間評価の実施	中間評価の方法	中間評価不合格者に対する指導	申請の条件	要提出物及びその仕様	申請日時	審査方法	その他
人文社会科学研究科	哲学・思想	原則として、第2年次に中間評価を受けなければならない。ただし、在学期間が3年を超えた者はこれを受けることができない。	修士の学位をもって合格とする。	専攻教育会議において検討する。	①24ヶ月以上在学見込。 ②所定の科目について30単位以上修得見込。 ③論文の題目等を当該年度の4月末日までに提出すること。	①中間評価論文正本1部、副本2部(製本) ②論文概要等(4部)	12月第3週の木曜日と金曜日 (当日が休日の場合は、その都度定める。)	学位規程等の定めるところによる。	①合格者には、博士論文提出資格を認める。 ②外国留学、病気、その他特別の事情のある者は、専攻の判断により、3年次以後に中間評価を受けることができる。
	歴史・人類学	原則として、第2年次に中間評価を受けなければならない。ただし、在学期間が3年を超えた者はこれを受けることができない。	修士の学位をもって合格とする。	専攻で検討する。	①24ヶ月以上在学見込。 ②所定の科目について30単位以上修得見込。 ③当該年度の5月最終の平日までに題目の申請。	①中間評価論文の題目等の提出 ②中間評価論文正本・副本各1部(製本)	12月第3週の木曜日と金曜日 (当日が休日の場合は、その都度定める。)	①学規程則及び審査内規等の定めによる。 ②学位規程の定めによる。口述・学力試験は主査・副査・当該領域担当の全員で行う。	①合格者には、博士論文提出資格を認める。 ②出産、育児、介護、長期の入院等の事情のある者は、専攻の判断により、3年次以後に中間評価を受けることができる。
	文芸・言語	原則として、第2年次に中間評価を受けなければならない。	修士の学位をもって合格とする。	専攻で検討する。	①24ヶ月以上在学見込。 ②所定の科目について30単位以上修得見込。	中間評価論文3部(製本)	12月第3週の木曜日と金曜日 (当日が休日の場合は、その都度定める。)	学位規程等の定めるところによる。	外国留学、病気、その他特別の事情のある者は、専攻の判断により、3年次以後に中間評価を受けることができる。
生命環境科学研究所	環境バイオマス共生学	原則として、第2年次に中間評価を受けなければならない。	修士の学位授与をもって合格とする。	翌年度以降、再度中間評価を受けなければならない。	①2年以上在学見込。 ②所定の科目について30単位以上修得見込。	修士学位論文(製本)	専攻長が定める日	学位規程等の定めるところによる。	合格者のみが博士論文を提出することができる。
人間総合科学研究所	生命システム医学	原則として、第3年次において中間評価を受けなければならない。	中間研究の評価による合否	中間研究報告書を再提出し、随時再審査を申請することができる。	18ヶ月以上在学し、所定の科目について30単位以上修得見込。	中間研究報告書	4月入学者:2年次の3月31日(当日が土曜日又は休日の場合は、その前日)締切 10月入学者:2年次の9月30日(当日が土曜日又は休日の場合は、その前日)締切	専攻中間評価審査専門委員会(主査1名、副査3名)による審査。中間研究発表会における研究報告及び質疑応答により実施。 生命システム医学専攻運営委員会での決定。	合格者のみが博士論文を提出することができる。
	疾患制御医学	原則として、第3年次において中間評価を受けなければならない。	中間研究の評価による合否	中間研究報告書を再提出し、随時再審査を申請することができる。	18ヶ月以上在学し、所定の科目について30単位以上修得見込。	中間研究報告書	2年次の3月31日(当日が土曜日又は休日の場合は、その前日)締切 (上記までに申請できなかった者:3年次の9月30日(当日が土曜日又は休日の場合は、その前日)締切)	専攻中間評価審査専門委員会(主査1名、副査3名)による審査。中間研究発表会における研究報告及び質疑応答により実施。 疾患制御医学専攻運営委員会での決定。	合格者のみが博士論文を提出することができる。

一貫制博士課程中間評価実施方法

研究科	専攻等	中間評価の実施	中間評価の方法	中間評価不合格者に対する指導	申請の条件	要提出物及びその仕様	申請日時	審査方法	その他
グローバル教育院	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	原則として、第2年次において中間評価を受けなければならない。本プログラムの中間評価は、「第一次適性試験」(QE1と呼称)として行う。 In the second year of the program, in principle, students must take the interim assessment as the Qualifying Examination 1 (QE1).	書面審査及び口頭発表と口頭試問による合否 The QE1 shall be assessed by the contents of a research or business proposal; and the performances of a public oral presentation and its Q&A session.	プログラム運営委員会において検討する。 Advice and support for unsuccessful QE1 applicants must be considered and discussed at the HBP Steering Committee's meeting.	2年次終了時までですべての必修科目を含めて60単位以上修得見込。 By the end of the second year of the program, students are expected to earn a minimum of 60 credits, including those for all the compulsory subjects.	3年次以降に行う学位論文研究計画書または企画書1部 As part of the QE1 application package, students must submit a research or business proposal for the Ph.D. thesis to be further improved in the third year and beyond.	2年次10月末締切 All the required application materials of the QE1 shall be submitted by the end of October in the second year.	QE1実施委員会(主査1名、副査2名を含む3名以上)による審査。第一次適性試験(QE1)における研究計画の発表及び質疑応答により実施する。 プログラム運営委員会及びグローバル教育院会議での決定。 The QE1 Committee (i.e. 1 chair and 2 other members) shall assess the public oral presentation and Q&A session in the QE1. A pass/fail result of the QE1 shall be determined at HBP Steering Committee's meeting followed by the SIGMA Council meeting.	
	エンパワーメント情報学プログラム	原則として、第2年次において中間評価を受けなければならない。本プログラムの中間評価は、「博士論文研究基礎力審査」(QEと呼称)として行う。	書類審査及び面接審査による合否	不合格の事由を解消して再審査を申請するよう指導する	①所定の科目について30単位以上修得見込 ②達成度評価の自己点検において、項目1～4が最終達成度審査満点の40%以上に到達	特定課題研究論文	1月	博士論文研究基礎力審査委員会(主査1名、副査2名を含む3名以上)による審査。特定課題研究論文発表会における研究報告及び質疑応答により実施。 プログラム運営委員会及びグローバル教育院会議での決定。	3年次編入学生で、他の大学院等において修士の学位を取得した者、またはQEに合格した者は、中間評価に合格したものとして扱う。 平成30年度以降の入学者については、QEに合格した場合に修士の学位を授与する。